

どぶろく祭

どぶろく祭は、白川郷の年間行事の中でも最も重要なもののひとつです。この祭は、1 日だけではなく、10 月 14 日から 19 日まで、この地域の神社で連日行われる農事終了を祝い、神々に五穀豊穡を感謝する収穫祭です。その内容は、神輿が地域の家々を練り歩く神輿行列、獅子舞などの伝統芸能や、大量のどぶろく（にごり酒）の振る舞いなどの宗教的な儀式で構成されており、どの神社もほぼ同じです。江戸時代（1603-1867）初期以降、これらの神社はそれぞれ独自のどぶろくを醸造することが習わしとなっています。これらの神社は、政府が自家醸造を禁止し、酒類の醸造が厳格に規制された後の 1896 年に特別な醸造免許を付与されました。神社は、宗教上の目的のみのために酒を醸造し、利益のために酒を販売しないことを条件に、これらの規則を免除されました。400 円の寄付と引き換えに、何度でもおかわりができる盃がもらえる白川八幡宮のどぶろく祭には、多くの参拝客が訪れ、その多くはこの神社のどぶろくの試飲を目当てに訪れます。